

# あ と が き

## 「学校支援地域本部事業に期待する」

社会教育アドバイザー 津 谷 ゆき子

社会教育について学ぶ機会に恵まれ、自分の心に大きな変化が生まれました。それは、社会教育の必要性和重要性を実感したことです。豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を培うには、子どもの目線に立って「まるごと子どもを育てる」という発想が必要だと思うようになりました。変化の激しい時代ゆえ、学校教育だけでは、次世代育成に限界があると思います。

学校支援ボランティアやコーディネーターの研修会、学校支援地域本部事業の実践校などの様子を伺い、また、実践発表を聴き、この事業の重要性をますます強く感じました。学校と地域をつなぐコーディネーターがいて、ボランティア活動が進んでいくと、学校にも地域にも様々な効果が生まれてくるという事実に出会い、感動を覚えました。

学校と地域の連携の効果が上がるまでには、学校も地域もコーディネーターも手探り状態で苦労も多かったと思いますが、乗り越えて得られた学校と地域のつながりは、強い絆で結ばれ、まさに子育て共同体になったと言えると思います。地域全体にこの絆ができると、安定した子育て地域ネットワークができあがるのではないのでしょうか。

「学校の先生でなければできないことは先生たちをお願いして、地域の人でもできることをしていきます」という住民、「地域の人たちに支えられて子どもと向き合う時間が多くなり本来の仕事に専念できるようになった」という教師、経験豊かで専門的な知識や技術や思いをもった外部の人々との学習や体験を喜ぶ子どもたち等、学校支援地域本部事業の効果の大きさに驚かされました。

地域の人々と触れ合う中で、「人は、一人では生きていけないこと」「人は、人とかがわりあつてつながって生きていくものであること」などを子どもたちは学んでおります。

「ボランティア活動を経験して、ボランティアをさせてもらったことに喜びと感謝の気持ちを抱いた」と語った高校生、「自分たちにも、やるべきことがあることに気付いた」と話した青年、「子どもたちの喜ぶ姿を見て、うれしかった。そして元気をもらった」「地域の子どもは地域で育てるという気持ちになってきた」とほほえんだ地域の学校ボランティア、「私たちが大きくなって大人になったら、私もボランティアのみなさんのように、みんなにいろいろなことを教えていきたい」と語る小学生等、心をうたれるたくさんの言葉に出会いました。学校支援地域本部事業は、取り組みの地域差はありますが、本気で実践しているところでは大きな成果を上げてきています。国の支援が終了する平成22年度末には、自立した形で活動が継続可能な段階まで高まっていることを願わずにはられません。

学校支援地域本部事業実践地域・学校では、地域の主体的な学校支援の活動を充実・発展させるとともに、他地域や学校に広げていただきたいと思ひます。

本冊子には、全県の各学校・地域での様々な活動が紹介されております。自校の活動に取り入れられることは大いに取り入れて、『今こそ子どもたちの教育のために協力して真剣に取り組むべき“時”です。』やらなければならないタイムリミットだと思ひます。

23年度以降も学校支援の活動を継続させるには、関係機関、施設、地域の諸団体とのつながりを生かしていくことが必要になるかもしれません。学校も地域も、学校支援ボランティアについての意識を高めて、それぞれの地域にマッチした活動を展開するために、『機能する組織、実動する組織』をつくってほしいと思ひます。これは、大人の役目です。

学校支援地域本部事業は、人づくり、地域づくり、未来づくりです。学校も地域もますます活性化して、子どもの育ちを喜び合いたいものです。